

平成30年9月12日
総務省
全国過疎地域自立促進連盟

平成30年度過疎地域自立活性化優良事例表彰における 優良事例の決定

総務省及び全国過疎地域自立促進連盟は、平成30年度の過疎地域自立活性化優良事例を、以下のとおり決定しました。

なお、表彰式については、来る10月25日（木）山口県山口市で行われる「全国過疎問題シンポジウム2018 in やまぐち（全体会）」において執り行います。

1 過疎地域自立活性化優良事例表彰について

本表彰は、地域の自立と風格の醸成を目指した過疎地域の取組を奨励するため、創意工夫をもって過疎地域の活性化に取り組み、優れた成果を上げ、過疎対策の先進的、モデル的事例としてふさわしいこと等を審査の基準として、過疎地域自立活性化優良事例表彰委員会（委員長 宮口 侗迪（みやぐち としみち）早稲田大学名誉教授）において選定の上、表彰するものです。

2 受賞事例

◎総務大臣賞（4事例）

| 団体名 | キャッチフレーズ |
|--|--|
| とくていひ えいりかつどうほうじん 特定非営利活動法人 かみしほろ 上士幌コンシェルジュ かみしほろちょう （北海道上士幌町） | NPO 法人上士幌コンシェルジュによる都市と農村の 交流促進プロジェクト |
| きぎょうくみあい 企業組合くれば しまだし （静岡県島田市） | ウエルカムささま ～ササマックスプロジェクト～ |
| あおが じ ち しんこうかい 青河自治振興会 みよしし （広島県三次市） | 『こころ あたたまるふるさと あおが』～持続的 な住民主体のまちづくりへの挑戦～ |
| すおうおしまちょう 周防大島町 すおうおしまちょう （山口県周防大島町） | 周防大島には理想の「島暮らし」がある ～「ひと」 や「しごと」の流れを「定住」に繋げる！～ |

◎全国過疎地域自立促進連盟会長賞（5事例）

| 団体名 | キャッチフレーズ |
|---|---|
| ちゅうかちいき いんかい 中和地域づくり委員会 (岡山県真庭市) | 持続可能な地域を目指して始まった「中和いきいきプロジェクト」～地域資源循環と移住者と地域で織り成す小さな里山資本主義～ |
| かじなみちく かつせいかすいしんいんかい 梶並地区活性化推進委員会 (岡山県美作市) | 「移住者の力」を「地域の力」に～地域団体による移住者の積極的受入れを軸とした地域活力づくり～ |
| とくていひえいりかつどうほうじん 特定非営利活動法人 ゆうゆうグリーン俵山 (山口県長門市) | できる時に、できる人が、できるだけ！～地域住民が楽しく、誇りを持って住み続けたいと思える地域に～ |
| しこく ひきょう やましる おおほけようかいむら 四国の秘境 山城・大歩危妖怪村 (徳島県三好市) | 山里に伝わる妖怪伝説を核にした地域づくり |
| まちづくり学校双海人 (愛媛県伊予市) | ㊦るさとを愛し、㊧のしく学び、㊨んなが幸せになる～地域の担い手を育て、移住者も一緒に幸せづくり～ |

※全国過疎地域自立促進連盟は、過疎関係都道府県及び過疎地域市町村等を会員とする団体で、会員相互の緊密な連絡提携により、過疎対策事業の充実強化を図り、過疎地域の自立を促進し、過疎地域における産業、経済の開発振興と地域住民の生活、文化向上を図ることを目的とする団体です。

連絡先

総務省地域力創造グループ過疎対策室

担 当：長谷、中村

代 表 電 話：03-5253-5111

内 線：23136

直 通 電 話：03-5253-5536

F A X：03-5253-5537

全国過疎地域自立促進連盟

担 当：宮原、萩原

直 通 電 話：03-3580-3070

F A X：03-3580-3602

平成30年度 過疎地域自立活性化優良事例表彰 受賞事例の概要一覧

■総務大臣賞 4事例

| 都道府県名 | 市町村名 | 団体名 | キャッチフレーズ | 概要 |
|-------|-----------------------|---|---|--|
| 北海道 | かみしほろちょう 上士幌町 | とくていひ えいりかつどうほうじん 特定非営利活動法人 かみしほろ 上士幌コンシェルジュ | NPO法人上士幌コンシェルジュによる都市と農村の交流促進プロジェクト | 移住者が安心して暮らせる環境を整えるため、移住者が開催する誕生会やフリーマーケットをフォローしたり、仮装盆踊り等に参加することで地元町民と移住者の交流の懸け橋となるような取り組みを行っている。また、商品開発を新たにはじめ、これまでも行っている特産品の販売やふるさと納税特産品の発送により、地域の特産物を活かした都市と農村の交流促進にも積極的に取り組んでいる。 |
| 静岡県 | しまだし 島田市 | きぎょうくみあい 企業組合くれば | ウエルカムささま ～ササマックスプロジェクト～ | 地域資源を活かしながら住民全体でアーティストインレジデンスを実施することで、定住・交流人口の増加、地域への経済的効果を高めている。国際陶芸祭やアーティストインレジデンスの取組では、地域住民と陶芸家、来場者との交流を通じて地域に活気をもたらしており、また、地元食材を利用した加工販売施設の開設により、女性やお年寄りの活躍の場を創出している。 |
| 広島県 | みよしし 三次市 | あおがじ ちしんこうかい 青河自治振興会 | 『こころ あたたまるふるさとあおが』 ～持続的な住民主体のまちづくりへの挑戦～ | 子どもは地域の宝との考えの下、「農」を中心とした田舎文化と都市の交流を目標に掲げ、青河自治振興会が中心となって、住民主体で地域の暮らしを守り、都市農村交流の推進に向けた活動を展開している。また、「有限会社ブルーリバー」による定住促進対策事業や「合同会社あおが」による農家レストランの運営など、様々な地域運営の手法により地域活性化に取り組んでいる。 |
| 山口県 | すおう おおしま ちょう 周防大島町 | す ough おおしま ちょう 周防大島町 | 周防大島には理想の「島暮らし」がある ～「ひと」や「しごと」の流れを「定住」に繋げる！～ | 基幹産業である農業や漁業と観光交流を結びつけた体験型修学旅行の受入数は県内最多であり、農業・漁業の担い手がホームステイの受入家庭や体験のインストラクターとして活躍するなど、地域間交流や世代間交流が地域活性化につながっている。また、定住相談窓口となる「周防大島定住促進協議会」の設置や、一泊二日の島暮らし体験を提供する「島時々半島ツアー」の開催など、多様な定住促進活動を行っている。 |

■全国過疎地域自立促進連盟会長賞 5事例

| 都道府県名 | 市町村名 | 団体名 | キャッチフレーズ | 概要 |
|-------|------|-------------------------|---|--|
| 岡山県 | 真庭市 | 中和地域づくり 委員会 | 持続可能な地域を目指して始まった「中和いきいきプロジェクト」～地域資源循環と移住者と地域で織り成す小さな里山資本主義～ | 地域外に流出していた消費を、地域内の資源を活用することで、地域内で経済を循環させる「薪プロジェクト」、都市部の若者が昔からの暮らしやなりわいを地域に入り地域から学び、持続可能なライフスタイルを模索する「真庭なりわい塾」、庭先で栽培した余った作物を出荷することで、やりがいや生きがいを創出し、出荷者同士のコミュニティ強化を図る「庭先野菜プロジェクト」の3本を柱とした「中和いきいきプロジェクト」を展開し、地域住民も移住者も子どもから高齢者まで、みんながいきいき活躍できる地域を目指している。 |
| 岡山県 | 美作市 | 梶並地区活性化 推進委員会 | 「移住者の力」を「地域の力」に～地域団体による移住者の積極的受入れを軸とした地域活気づくり～ | 人口減少や高齢化の進行等により、地域活力の低下や、空き家の急増、地区内の小学校の閉校等の地域課題を踏まえ、「お試し住宅」の管理、入居者へのサポート、入居期間終了後の空き家の紹介等を住民自らが行うことで、梶並地区への移住者を増やすとともに、移住者等を地域行事や特産品づくり等の地域づくり活動に巻き込み、その力を地域力の向上に役立てている。 |
| 山口県 | 長門市 | 特定非営利活動法人 ゆうゆうグリーン俵山 | できる時に、できる人が、できるだけ！ ～地域住民が楽しく、誇りを持って住み続けたいと思える地域に～ | 俵山温泉の利用客の減少に起因する地域活力の低下と競争力の弱体化を踏まえ、地域資源である俵山温泉を有効に活用し、NPO法人等を主体に、グリーンツーリズムの推進やお試し暮らしの宿（ゆうゆうの宿）の運営、公共交通空白地の有償運送などの取組を展開する中で、都市農村交流活動や移住定住の動きが活発化し、新たな活力の創出につながっている。 |
| 徳島県 | 三好市 | 四国の秘境 山城・大歩危妖怪村 | 山里に伝わる妖怪伝説を核にした地域づくり | 平成20年に三好市山城町が世界妖怪協会から「怪遺産」に認定されると、町ぐるみで妖怪をアピールする地域づくりに取り組むようになった。また、徳島、岩手、鳥取の3県で実施している「怪フォーラム」にも、共催者として運営に大きく貢献しており、平成29年の「怪フォーラム」では、1万1千人が会場に訪れるなど、着実に妖怪文化が継承・発展してきている。 |
| 愛媛県 | 伊予市 | まちづくり学校 双海人 | ふるさとを愛し、たのしく学び、みんなが幸せになる ～地域の担い手を育て、移住者も一緒に幸せづくり～ | 住民らにより結成されたまちづくり学校双海人の毎月の定例会では、様々なテーマのもと、高校生から80歳を越える高齢者が意識を共有する学びの場となっている。特に興味関心の高い福祉・商品開発・イベント・移住については、クラブ活動として継続的に活動している。また、外部からの参加も自由とし、無理のない活動を許容する団体の寛容さが、移住者が地域に根付きやすい気運の醸成に寄与している。 |